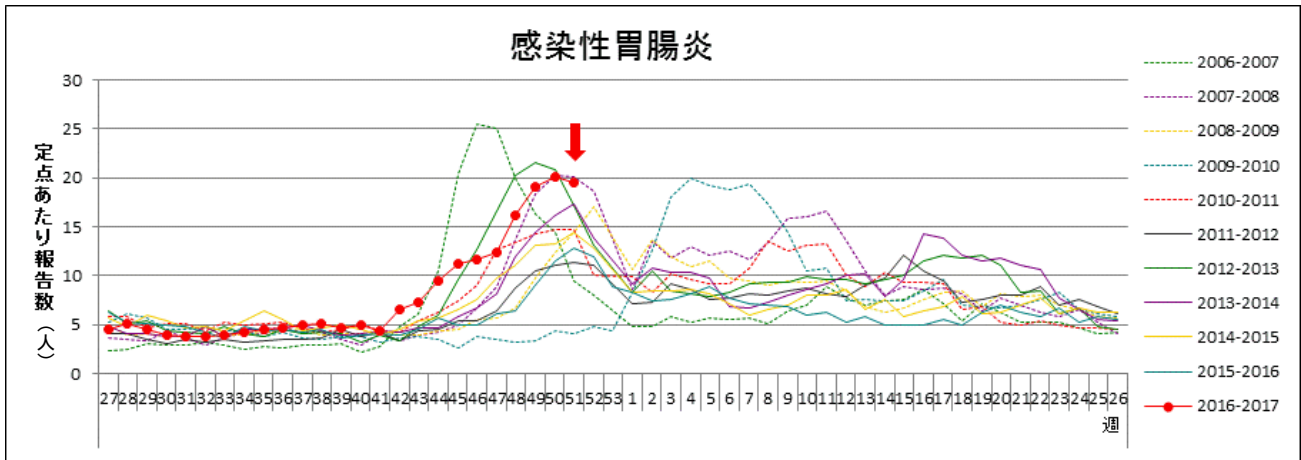


感染性胃腸炎週報 2016年 第51週 (12月19日～12月25日)

➤ 岡山県の流行状況

- 感染性胃腸炎は、県全体で1,054名(定点あたり20.15 → 19.52人)の報告がありました(54定点医療機関報告)。
- 感染性胃腸炎による学校等の臨時休業が5施設でありました。

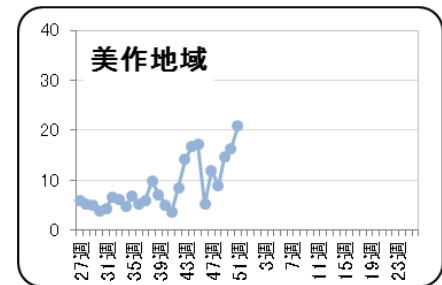
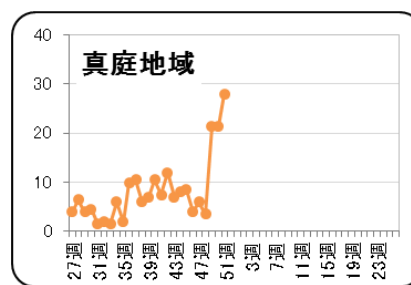
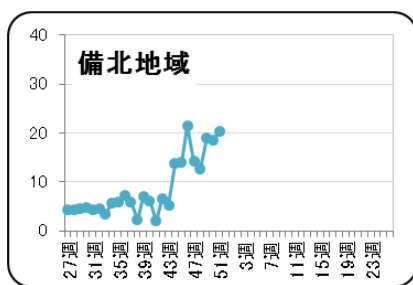
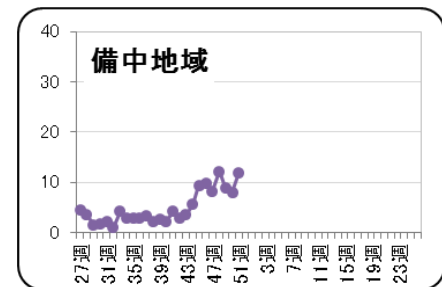
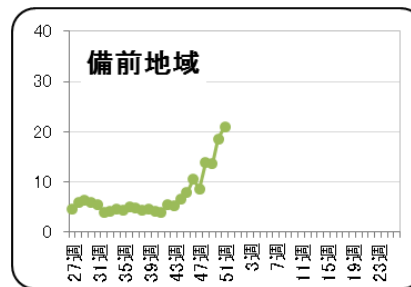
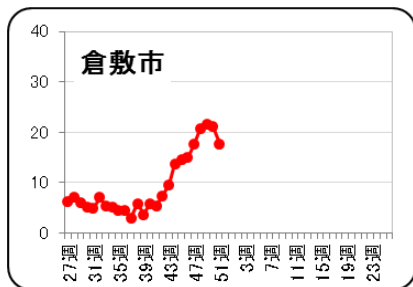
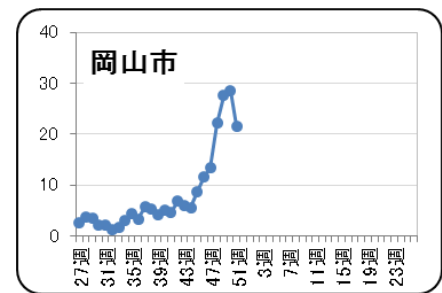
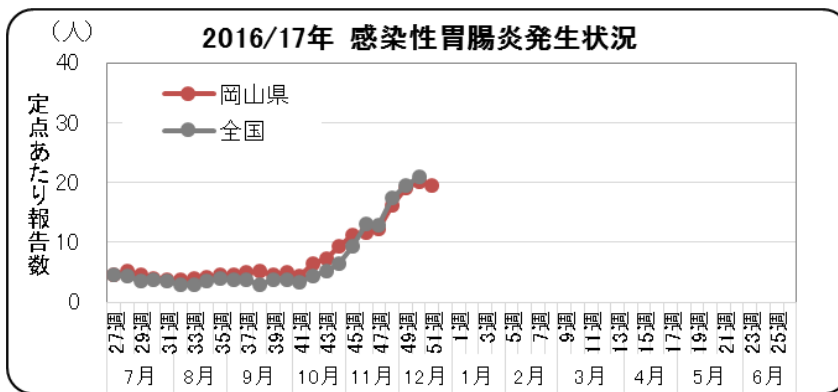


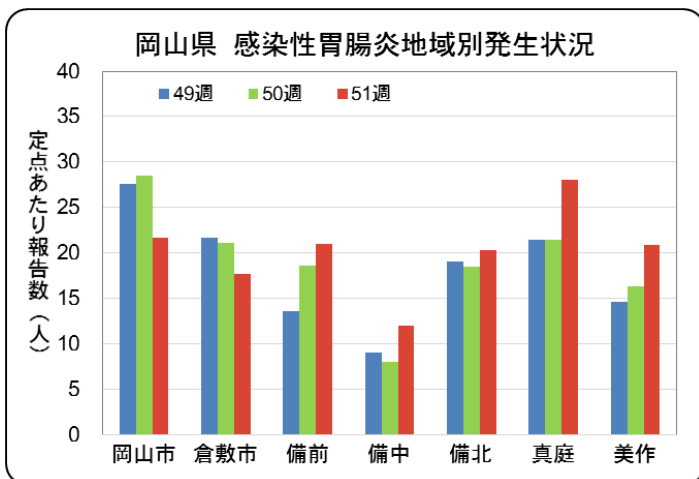
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で1,054名(定点あたり20.15 → 19.52人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。第41週(10/10～10/16)以降、8週連続して増加していた患者数は、第49週(12/5～12/11)からほぼ横ばいとなりましたが、依然として多くの患者が報告されています。

冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。また、小さなお子さんや高齢の方は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

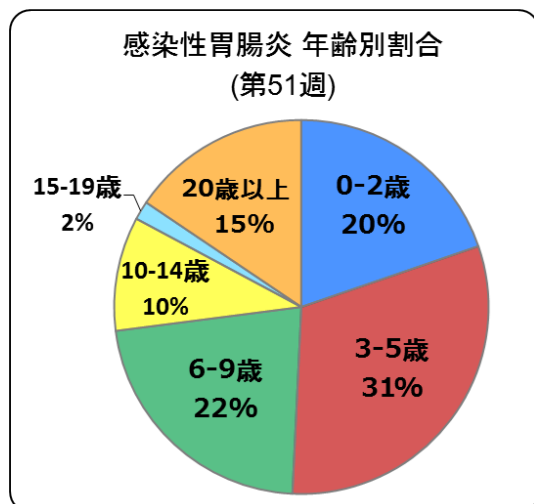
◆地域別・年齢別発生状況





レベル3		レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値
20	12	0< 20未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。



地域別では、真庭地域 (28.00 人)、岡山市 (21.64 人)、備前地域 (21.00 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。備前地域と美作地域 (20.83 人) で新たに定点あたり報告数が 20 人を超えたので、備中地域を除く全ての地域で発生レベル 3 となりました。

第 51 週年齢別割合では、3-5 歳 31%、6-9 歳 22%、0-2 歳 20% の順で高くなっています。

◆◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎に気をつけましょう ◆◆

予 防 方 法

1. 最も大切なことは、手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理をするときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取りましょう。拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム**(*家庭用塩素系漂白剤でも代用可)で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で 1 分間以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム**(*家庭用塩素系漂白剤でも代用可)での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗った後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

4. 食品は、**中心部まで十分に加熱**しましょう。(中心部を **85~90℃で 90 秒間以上**)

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

※塩素系漂白剤の使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。

